

死
應無所住
夫惟

而生其心

九州路肥之前州高来郡原之城者寛永十四白丁丑中冬鬼理志丹之宗徒楯籠處古城也干爰肥後国住人益田四郎若冠者密徘徊自他国訛世人勸鬼理支丹法令入同宗甚純熟矣彼宗旨源根源元来邪帥外道法也故不信正法不貴仏神不敬王法只是欲奪他之国志無二無三也以故東照神君在日禁此徒更不輕雖然彼徒党直面在干外曲性存干内諸人不知其邪心果而結党企一揆然其徒三万七千余隨四郎謀略而築当城忽欲覆国家由是天下兵将衆下着急也聞説列国諸将不移時日馳向当城一時攻落討捕数万頡作三分天草当郡長崎三处理却之矣至今此地骸骨推野山流血染海水滿池草木亦变白色爰其亡魂或化豸或变妖 附五穀依草木枝葉凋落人民屋成 惱男女数靈散乱無休時郡職穗積氏鈴木三郎九郎重成公有慈心歸仏乘專仁義重君恩信心堅固善士也其愍亡靈^シ淪惡苦深嘆村民男女怖畏於彼古戰場莊嚴道場請兩郡中罹漢僧看讀金剛譬若經修礼懺摩法勤修水陸勝会善尽矣美尽矣今莅散筵 演目傘盖無上神 之次借手於野 刻彫碑右一基以伸供養伏願依斯善勸請靈頓渡過生死苦海速安着清浄仏也次冀郡民男女息未安穩五穀成熟如意吉利矣乃至平等利益者也謾打一偈結小句云

凡聖含靈平等法 梵音滿身海潮音

金沙灘上一絢月 又弘清風古岑岬

慶安元自戊子黄梅吉辰 釈氏中華叟

珪文記

(右より)

- 8行目 「虫」のうえに「ノ」
- 9行目上 「りっしんべん」の右に「任」
- 9行目下 「虚」に「疒」(やまいだれ)を被せる
- 12行目 「いとへん」の右に「風」
- 13行目上 「兄」を左右に2つ並べる
- 13行目下 「采」(のごめ)の右に「内」

右より 11 行目・4 番目の文字および 17 行目最後の文字は、Adobe Reader のサポート状況により方向乱れあり